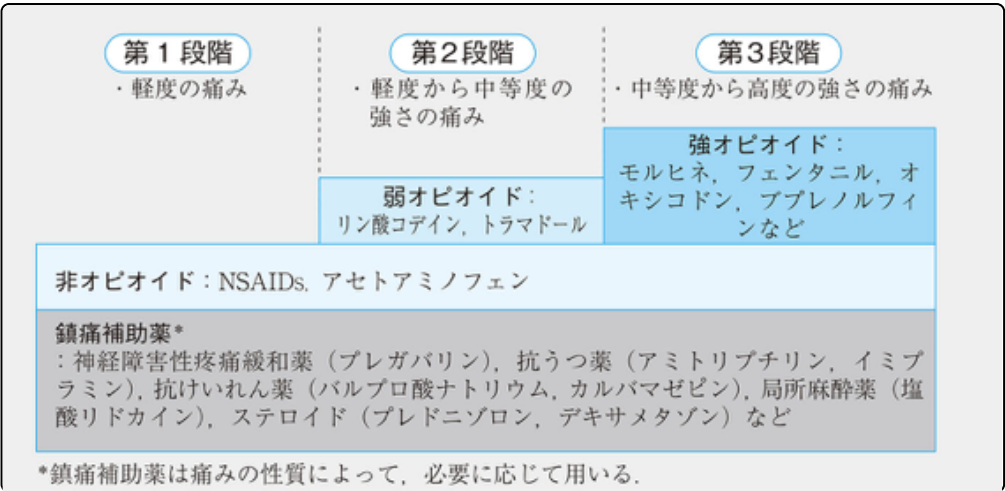


# Palliative

## WHO方式3段階除痛ラダー



## Opioid 2

骨転移: RT ⇒ 除痛

1. 便秘：  
ほぼ必発で、耐性が形成されにくい。蠕動運動の低下と肛門括約筋の緊張による。  
→ 緩下剤（酸化マグネシウムなど）、刺激性下剤（センノシド）を継続的に投与する。
2. 悪心・嘔吐：  
オピオイド投与開始時や増量時に生じやすい。頻度は半数程度。嘔吐中枢への刺激による。  
→ 制吐剤の予防的投与を行う。通常は数日以内に耐性ができて症状は消失する。
3. 眠気：  
オピオイド投与開始時や増量時に生じやすい。通常は数日以内に消失する。  
→ 痛みがなく強度の眠気が続く場合は、オピオイドの減量を検討する。
- ※他に呼吸抑制、排尿困難、皮膚瘙痒感、せん妄などがあるが、WHO方式に従った適切な使用方法ではこれらの副作用はまれである。

## Quiz